

第14回日中韓文化大臣会合 2023 全州宣言

2023年 9月7日～8日、第14回日中韓文化大臣会合が大韓民国全州市で開催された。今回の会合では、永岡桂子日本国文部科学大臣、胡和平中華人民共和国文化・観光部長、朴普均大韓民国文化体育観光部長官(以下「三者」という)が出席した。

三者は、コロナ禍の状況下でも日中韓文化大臣会合を継続して開催するとともに、三か国が連携しながら東アジア地域の多様な文化芸術活動を支援してきた点を高く評価した。2019年の仁川宣言、2021年の北九州宣言、2022年の曲阜行動計画が、三か国間における積極的な文化交流・協力を促進し、東アジア地域の友好と連帯のメッセージを世界に発信する上で重要な役割を果たしたことを確認し、歴代会合の精神を引き続き継承し発展させることで一致した。

特に三者は、曲阜行動計画で確認した未来の三か国間対話や協力を担う青少年の交流の重要性について改めて認識を共有し、若い世代の文化交流や協力をより強化し拡大していくことで一致した。さらに、三か国の連携のもと文化分野において世界に貢献できるよう、より多様で深層的な文化交流や協力を未来志向で継続することとした。

1. 若い世代文化交流及び協力の強化

- (1) 三者は、未来志向で発展的な協力関係の構築に向け若い世代間の意思疎通や交流が必要であることに共感し、日中韓の学生によるアニメーション共同制作など三か国の文化芸術交流や協力が若い世代間の信頼及び友誼を増進させることに貢献してきたことを確認した。
- (2) 三者は、文化交流・協力事業を推進する際、若い世代の参加及び交流を積極的に奨励することとした。また、三か国の青年芸術家による共同創作・制作、公演・展示など多様な文化芸術分野における積極的な交流・協力が重要であることを確認した。

- (3) 三者は、三か国の 若い世代が互いの文化を尊重し共感を深めていく上で、文化芸術教育が重要な役割を果たす点を確認し、関連の政策について協力していくこととした。

2. 東アジア文化都市の協力の活性化及び都市競争力の向上

- (1) 三者は、2024年東アジア文化都市として、日本の石川県、中国の潍坊市、大連市、韓国の金海市を東アジア文化都市に選定した。三者は、東アジア文化都市間の交流が三か国地域の相互協力や和合、東アジア地域全体の繁栄に大きく貢献していることを確認した。
- (2) 三者は、東アジア文化都市の歴史・文化資源の固有の魅力を世界に向けて発信し、文化の多様性増進に貢献するために、歴代選定都市間の交流を持続的に奨励するとともに、欧州文化首都、A S E A N文化都市、ユネスコ創造都市などの世界都市ネットワークを活用した交流・協力を強化することとした。
- (3) 三者は、東アジア文化都市の国際ブランド価値を絶えず向上させる必要があることで一致した。また、広報の波及力向上のため、三か国の若い世代の芸術家が一堂に会して共同ロゴを制作することとした。また、三か国の東アジア文化都市間の青少年交流を推進し、若い世代が自分の住む地域の文化に誇りを持ち、地域発展の原動力となるよう奨励することとした。

3. 文化を通じた社会貢献及び国際的な諸課題への対応

- (1) 三者は、障害の有無にかかわらず誰もが文化芸術に親しみ、参加することができるよう、障害者による文化芸術活動を幅広く促進するとともに、国際文化交流の更なる促進を図ることとした。また、障害のある人を含め、三か国の国民や世界の人々が公正に文化へアクセスできる機会を保障することが重要であるとの認識で一致した。
- (2) 三者は、文化多様性が持続可能な社会発展の基盤を形成し、気候変動などの国際的な諸課題の解決へ大きく貢献するものであるという認識で一致した。よって 三者は、三か国間の文化交流・協力において相互信頼と尊重を基盤に文化の多様性を増進させるために努力することとした。

- (3) 三者は、人口減少、超高齢化、気候変動など国際的に共通する諸課題の解決において、文化の持つ社会的価値や果たす役割の重要性について認識を共有し、持続可能な社会実現のための文化の発展に向けて連携することと一致した。特に、文化へのアクセス不平等を解消するため、事例や経験の共有を図ることとした。

4. 文化芸術分野の多様かつ深みのある文化交流・協力の推進

- (1) 三者は、日中韓文化芸術教育フォーラムや日中韓芸術祭を始めとする文化芸術の交流・協力が相互理解と友好を増進させることに貢献してきたことを確認し、文化芸術の協力を拡大することで、三か国間の文化的連帯と結束を強化することとした。
- (2) 三者は、官民を問わない博物館、図書館、美術館間の交流が、三か国の国民の暮らしを豊かにし、地域、世代、世界をつなぐ重要な役割を果たすという点を確認した。さらに、三者は国立文化芸術機関の共同展示会や研究調査、機関長及び実務会議の開催などを通してパートナーシップの強化を図り、持続的な文化交流の基盤を構築し、東アジア地域の文化芸術分野の発展や、国際社会におけるプレゼンスの向上を共に目指すことで一致した。
- (3) 三者は、文化芸術分野のデジタル化に関する協力を強化するとともに、関連人材の育成と交流を奨励することと一致した。

5. 未来の共同成長に向けた文化産業の協力強化

- (1) 三者は、日中韓文化コンテンツ産業フォーラムが三か国間の文化産業分野における情報交流や創意的な協力の機会を創出する上で重要な役割を果たしている点を再確認した。三者は、文化産業の持続可能な発展に向けた協力を強化し、交流を増進することとした。
- (2) 三者は、多様な先端技術と文化コンテンツの融合が拡大する世界的な流れに対応するため、三か国の文化産業のデジタルトランスフォーメーション及び振興のための方策について官民の交流及び意思疎通を強化し、奨励することとした。

- (3) 三者は、文化と技術の融合・複合に対応できる人材の養成及びゲーム、マンガなど多様な分野における人材育成などに係る政策の共有、交流の強化を推進することとした。
- (3) 三者は、著作権保護の重要性を再確認し、正規コンテンツの流通促進、著作権侵害の防止、著作権保護意識の向上に向けた協力と交流を持続的に推進することとした。また、生成AIなど先端技術の発展によって触発される著作権問題への対応を模索するなど協力を強化することとした。

6. 文化と観光、文化とスポーツなど文化との融合・複合促進

- (1) 三者は、三か国の文化と観光産業の融合・複合的な発展を促進し、文化芸術資源を活用した高付加価値な観光コンテンツ開発や観光地域づくりの経験や知見の共有を奨励するとともに、何度も訪れたい魅力的な東アジア地域のイメージを強化するために相互協力することとした。
- (2) 三者は、2018年の平昌冬季オリンピック・パラリンピック競技大会、2021年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2022年の北京冬季オリンピック・パラリンピック競技大会期間中に企画された文化活動や交流の重要性を再確認し、その経験と精神を継承することとした。これを踏まえ、三か国が開催する国際的なスポーツイベントを契機に、三か国間の文化交流を拡大し、東アジアの文化価値を世界に発信することで、国際社会の協力及び文化の発展に貢献することとした。

7. 文化遺産分野の保護及び協力の強化

- (1) 三者は、文化遺産の保護や活用方法に関する交流を支持することを確認した。
- (2) 三者は、無形文化遺産の保護分野における交流・協力や情報共有を引き続き強化し、関連機関の無形文化遺産分野の専門人材育成に向けた交流活動を奨励することとした。また、三者は、自国に設立された無形文化遺産分野のユネスコのカテゴリー2センターが積極的に機能を果たすことを支持し、アジア太平洋地域の無形文化遺産に対する保護活動を促進するために協力することについて継続的に支持することで一致した。

8. その他事項

- (1) 三者は、日中韓三国協力事務局が三か国の文化交流及び協力に参加することを歓迎し、事務局の積極的で持続的な役割を支持することとした。
- (2) 三者は、第15回日中韓文化大臣会合を2024年に日本で開催することを決定した。
- (3) 本宣言文は日本語、中国語、韓国語で作成され、1式3部で、3種類は同等の価値を持つ。

日本国
文部科学大臣
永岡 桂子

中華人民共和国
文化・観光部長
胡和平

大韓民国
文化体育観光部長官
朴普均

永岡桂子

胡和平

朴普均